

福島県沖のアカムツの資源状況と生態

福島県水産海洋研究センター 海洋漁業部

部門名 水産業－資源管理－その他魚種（海）

担当者 安倍裕喜・岩崎高資

I 新技術の解説

1 要旨

近年、アカムツは福島県の底びき網漁業において重要な漁獲対象種となっており、今後の有効活用には資源状況を把握する必要がある。アカムツの資源状況および生態を把握することを目的とし、調査船トロール調査および漁船サンプル測定の結果を整理した。

調査船調査によって得られた分布密度（以下、調査船 CPUE）は増加しており、新規加入が継続して見られていることを明らかにした。また、来遊資源とされてきたアカムツであるが、透明卵を持つ個体が確認されており、福島県沖で再生産をしている可能性がある。

- (1) 解析には相馬沖 5 点 (100、150、200、300、400m)、いわき沖 5 点 (100、150、175、300、500m) で調査指導船「いわき丸」が実施したトロール調査 (2006～2010 年、2014 年～2019 年) のデータ、生殖腺指数 (以下、GSI) の算出には漁船サンプルデータを併せて使用した。
- (2) 採取されたアカムツは各種測定を行い、調査船 CPUE、全長と GSI の関係、月別の GSI の変動、および年別全長組成を整理した。なお、GSI は生殖腺重量 ÷ 体重 × 100 で求めた。
- (3) 震災前と比較して震災後は調査船 CPUE が増加傾向であった (図 1)。
- (4) オスでは全長 16 cm 以上で GSI が 1.0 を、メスでは全長 19cm 以上で GSI が 2.0 を超える個体が出現することが明らかとなった²⁾ (図 2)。
- (5) GSI はオスでは 6～10 月に 1.0～4.7、メスでは 6～10 月に 2.0～20.6 と高い値²⁾ を示す個体が出現した (図 3)。また、2020 年 10 月には透明卵を持つ雌が 2 個体確認された。
- (6) 2017 年以降、全長 10cm 未満の小型個体が継続的に加入していることが確認された (図 4)。

2 期待される効果

- (1) 底びき網漁業の漁場の有効活用を検討する際に活用できる。

3 適用範囲

- (1) 漁業者、研究者、行政関係者

4 普及上の留意点

- (1) 福島県海域への移出入を考慮していないことを留意する必要がある。

II 具体的データ等

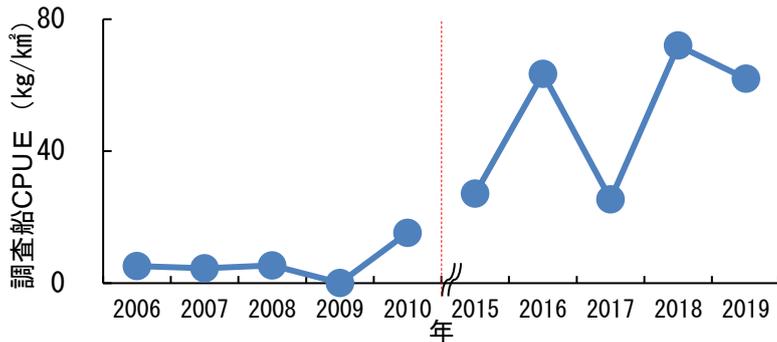


図1 調査船 CPUE の年変動

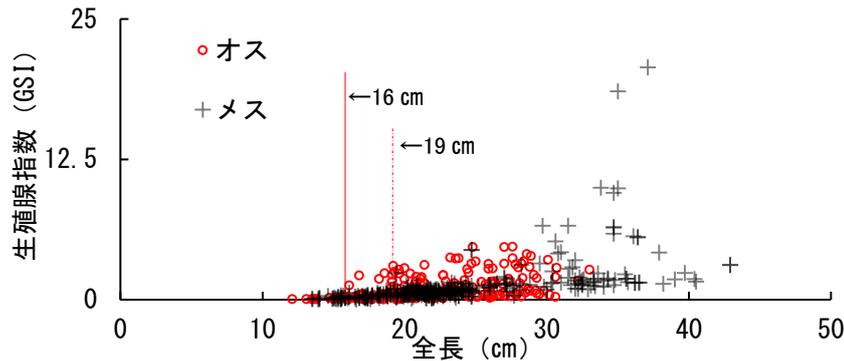


図2 調査船および漁船データによる雄雌別全長-GSI 関係

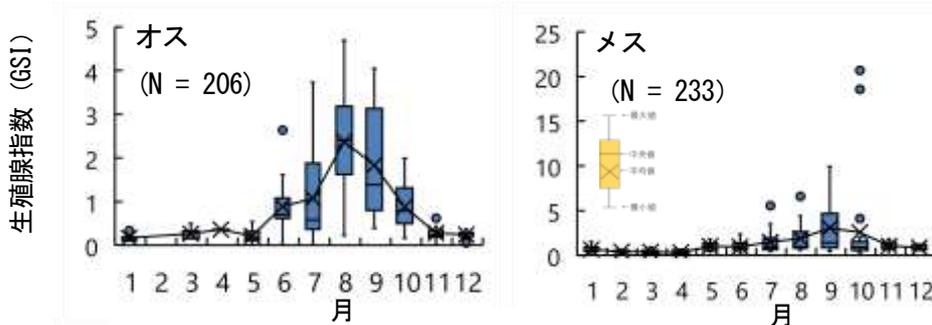


図3 調査船および漁船データによる月別 GSI の変動

(オス：全長 16cm 以上、メス：全長 19 cm 以上)

※ 折れ線は平均値を結んだもので、点は特異点を示す。

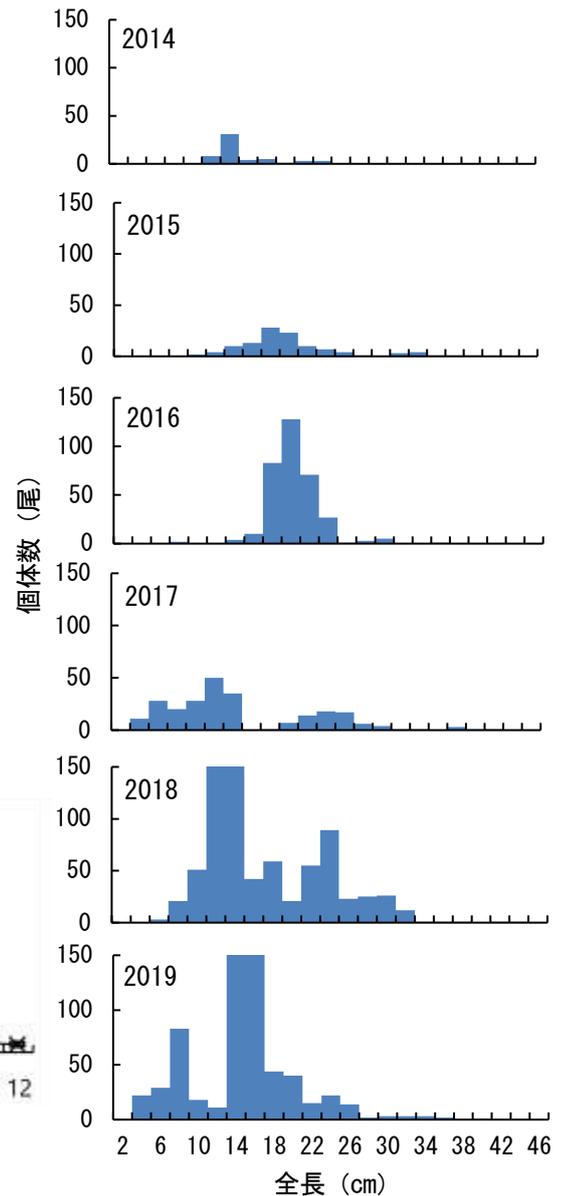


図4 調査船調査による年別全長組成

III その他

1 執筆者

安倍 裕喜

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 28～令和 2 年度
- (2) 研究課題名 底魚資源の管理手法に関する研究

3 主な参考文献・資料

- (1) 坂本啓他, アカムツの生息場水温と分布移動, 平成 28 年度福島県水産海洋研究センター試験研究成果, 2016.
- (2) 河野光久他, 対馬海峡におけるアカムツの成熟および産卵, 山口県水産研究センター研究報告, 119-123, 2011.